

令和５年度 第２回 伊勢原市地域公共交通協議会 会議録

〔事務局〕 都市政策課

〔開催日時〕 令和６年２月１４日（水） 午後２時から

〔開催場所〕 伊勢原市役所３階 全員協議会室

〔出席者〕

（委員） 藤井会長、大島副会長、小堤委員、金子委員、佐藤委員（代理出席）、森委員、宮原委員（代理出席）、高橋委員（代理出席）、松田委員、小下委員（代理出席）、霍田委員、福永委員、平田委員、最上委員（代理出席）、菊本委員、吉野委員、土方委員
（欠席：市川委員、小川委員、佐伯委員）

（事務局） 吉田都市部長、大園都市政策課長、脇坂都市計画係長 他１名

〔公開の可否〕 公開

〔傍聴者〕 なし

《会議経過》

１ 開 会

２ あいさつ

３ 議 題

議案第１号 令和５年度事業報告について

議案第２号 利用促進パンフレットの更新について

議案第３号 地域公共交通計画の進捗管理について

４ そ の 他

５ 閉 会

《議事》

会	長	それでは、次第に従い、議事を進めます。 本日の議題は、 第1号議案 令和5年度事業報告について 第2号議案 利用促進パンフレットの更新について 第3号議案 地域公共交通計画の進捗管理について の3点となっています。 事務局から内容の説明を行い、その後、委員の皆様の御意見等をお聴きしていきたいと存じますのでよろしくお願いします。 それでは、議案第1号 令和5年度事業報告について、事務局から説明をお願いします。	
事	務	局	【説明】
会	長	ありがとうございました。 昨年6月に公表した「伊勢原市地域公共交通計画」の5箇年計画の初年度の事業報告でした。 この案件につきまして、御意見等ございましたらお願いします。	
委	員	ユニバーサルデザインタクシーの台数について、今年度2台の導入を予定していますが、母数となる全体の車両数は53台で変わらないので修正をお願いします。	
事	務	局	修正します。
会	長	公共交通不便地区等が点在している現状がある中で、需要のまとまりがないことによる対応の難しさが伊勢原市にはあります。 こうした中で、現在、福祉部局と連携して行っている取組はありますか。	
事	務	局	福祉部局で行っている施策の利用状況の把握に努めているところですが、現在、福祉部局と連携した事業は行っていません。 今後、他市の事例研究を進めながら、福祉部局との連携を深めてまいりたいと考えています。

会	長	柏市の事例については、柏市も不便地域が点在しており画一的な施策はできないため、地域ごとのニーズを探っていました。 例えば、週一回は買い物に行きたいというニーズがあった地域では、決まった日時にタクシーを手配して、集まった市民で乗り合って買い物を行う支援を行っている事例があり、利用されているようです。 公共交通の支援サービスとして、必ずしも定時定路線型で毎日運行しなくてはいけないということではなく、地域のニーズを正確に把握して、地域に寄り添った移動支援を考えていく必要があります。
委	員	平塚市の自動運転バスの実証運行に参加しましたが、その中の課題として、路上駐車車両の存在がありました。今後、このようなモビリティサービスを検討していく上では、路上駐車や電動キックボードなどの存在が考えられるので、優先レーンや専用レーンの設置など、道路管理者などとも協力して検討を進めて欲しいです。
会	長	静岡県 の 2 市 2 町 が連携した自動運転バスの実証運行をした際にも、路上駐車等の同様の課題がありました。沼津市の事例では、路上駐車を避けるために片側二車線の道路の追越し車線側にスローモビリティを走らせましたが、この場合は走行車線側から追い抜かれるため、危険な状況もありました。 自動運転バス等を導入して行くに当たっては、「どこ」に導入し、そのために「どのような」規制を行っていくか、占有軌道ではない場合の対応などを考えていく必要があります。平塚市の事例だけではなく全国的に事例研究を行って、地域のニーズに合わせたモビリティの導入について調査・研究を行っていただきたいです。
委	員	神奈川中央交通の現状についてお伝えすると、2024 年問題や乗務員不足など多くの影響を受けています。 従来どおりの定時定路線型のみの運行を進めていくと必ずどこかで崩れてしまうので、グリーンスローモビリティやオンデマンドシステムを用いた運行、福祉サービスと連携するなど、バス事業者だけではなく皆様のお力を借りながら地域の交通を支えていきたいと考えています。
会	長	千葉や静岡の多くの自治体では、2024 年問題等に対応するため、減便や運休対応を既に行っている、若しくは、令和 6 年 4 月から行うところがほとんどですが、引き続き、減便や運休せずに企業努力を続けていくという考え方で良いでしょうか。

委 員	新型コロナの影響によって需要が下がっている路線等については、減便等の対応を行っていくことは考えています。
会 長	次年度に一気に減便等がされるわけではないことで安心しました。 タクシー事業者は、2024 年問題等に対して、どのようにお考えでしょうか。
委 員	新型コロナの影響により、東京都と神奈川県乗務員の 2 割が退職し、不足が生じています。こうした中で、都内のタクシー業界団体でライドシェアに関するガイドラインが発表され、神奈川県においても、京浜交通圏の三浦市でライドシェアが予定されているため、県央交通圏でもこうした取組が進んでいくことも想定されています。 タクシー需要については、特に雨天時の通勤時間帯や深夜帯等のニーズが多くなりますが、一方で、日中には供給過多に陥るなど、時間帯や曜日、天候による需要供給バランスのミスマッチが生じています。こうした供給不足の穴埋めをするための取組の 1 つとして、ライドシェア導入の動きが急速に進んでいるものと考えられます。 このように、タクシー業界では、4 月から事業者が主体となって、ライドシェアに協力するドライバーを受け入れようと動いています。 神奈中タクシーとしては、住民皆様の利便性を確保していくため、需要に対応できる乗務員の確保に努めていきたいと考えています。
会 長	ライドシェアを前提としない地域づくりを考えていくことも重要であるため、引き続き、情報共有を図っていけると良いと思います。 こうした公共交通を取り巻く環境が厳しさを増す中で、地域公共交通協議会の下部組織を設置し、労働環境や減便対応、行政の支援のあり方等について、事務局と交通事業者で意見交換を行い、施策に反映していくとする自治体が増えてきます。 是非、事務局としても、事業者の企業努力を継続していく環境が続いていますが、それに安心せずに、フォローアップしながら進めていって頂きたいと思います。
委 員	保健福祉部では、高齢者や障がい者の移動支援を行っている中で、市内に 5 箇所の地域包括支援センターを設け、高齢者の困りごと等を把握するとともに、情報共有を行っています。市民からの意見としては、買物についての意見が多く、重たいものを宅配便で運んでくれる店の紹介や移動販売車の手配等の対応を行っています。

	市民要望の中では、バスやタクシー等に関する話もありますので、今後、事務局や委員皆様と協力しながら進めていきたいと考えています。
会 長	公共交通と福祉交通の線引きは難しく、例えば、ジャパントクシー等のユニバーサルデザインタクシーでは、乗務員がサポートしながら要介護要支援の方でも移動できる環境が整ってきています。一方で、車椅子利用者の乗降介助には停車スペースに十分なゆとりがないと難しく、安心して乗降できる場所がないといった課題もあり、その場合、公園や広場といった安全に乗降介助ができる場所の確保に向けた取組が必要となります。 このように、総合的な関係性を踏まえながら、関係部署等が連携し、交通事業者も交えた中で取組を進めていってほしいと思います。
会 長	その他御意見等がありますか。 計画がスタートして8か月ですが、毎年度事業の進捗状況や市民ニーズを踏まえながら、必要に応じて修正を加え、地域に寄り添った形の移動を考えていっていただきたいです。 それでは議案第2号について事務局より説明をお願いいたします。
事 務 局	【説明】
委 員	このようなパンフレットは、市民の理解を深めるのにとっても有意義なものであると思います。前回配布してからどのような方がパンフレットを御覧になられているのか把握されていますか。
事 務 局	令和2年4月から、公共施設やスーパー、金融機関、警察署等の多くの方が利用される施設に配架し、どのように活用されているかまでは把握できていませんが、パンフレットの在庫状況から多くの方に御覧頂いているものと認識しています。
委 員	質問の意図としては、例えば、高齢者の方が多く取られているのであれば、高齢者への支援施策等の情報を充実させたり、子育て世帯が取られるのであればそこにフォーカスした情報を載せたりしてもいいのではないかと考えたものです。

会 長	このパンフレットを誰が手に取り、どのように活用されるかまで考えられると、注力するべきところが見え、市民の利用につながっていくと思いますので、公共交通の満足度等のデータでフォローしていくことも検討できるかと思います。 また、今回が第2版ですが、第1版の表紙と同様のデザインで良いのか、更新されたことを打ち出していった方が良いのか検討してみてください。
会 長	その他御意見等がありますか。 引き続き、お気づきの点やもっと良い写真があるといったようなことがあれば、事務局にご提供をお願いします。 それでは議案第3号について事務局から説明をお願いいたします。
事 務 局	【説明】
委 員	伊勢原駅北口の交通結節機能強化の次年度の取組について、事業が進んできた中で、南口が飽和状態であること等を考え、情報共有ではなく一歩踏み込んで協議を行っていきたいと考えています。
事 務 局	伊勢原駅北口に関しては現在警察協議等を行っている段階であるため、担当課に相談したうえで、別途、協議を進めていくように働きかけを行ってまいります。
会 長	次年度の方針に基づいて検討して取組を行い、来年度の同時期に評価を行い、PDCAを回しながら検討していくことがこの協議会で求められていることです。 その他、特にないようでしたら、進行を事務局へお返ししたいと思います。皆様の御協力で議事進行を円滑に進めることができました。ありがとうございました。
閉 会	